

## 【騒音抑制】

騒音は大きく分けて2つあります。1つは65 dB以上のいわゆる大きな騒音で車や電車の音、車の警笛、踏切の警告音など、現代人が日々感じている生活環境音です。

もう1つは、30-40 dB位のどちらかという小さな騒音で、エアコン、パソコン、冷蔵庫などが出す音です。以前は2種類の騒音を一緒に考えて、抑制対策を立てていたようですが、最近は、各補聴器メーカーの調整ソフトに2種類の騒音を分けて抑制する機能を備えるようになりました。

家の中のように静かな環境で家族と会話をすると、なんとなく聞こえを阻害しているのが小さな騒音です。はじめて補聴器を装用した時に、何か雑音が聞こえると指摘されることが良くありますが、それもこの小さい騒音です。会話音の大きさの最小レベルは約40 dBと言われていいますので、この小さい騒音が言葉の明良性に微妙に影響してきます。

対策としては、30 dB迄、35 dB迄、40 dB迄といった段階を設定しておいて、ご本人の居住環境に合わせて段階を選択して抑制するやり方が通常ですが、最近は、会話音の最低レベルを常時モニターして、会話音以外の小さな音を自動的に抑制する補聴器も出てきています。

一方、大きな騒音ですが、この抑制はかなり難しいです。理由は会話音と騒音が同時に存在していることです。基本的に会話音（断続音）と騒音（継続音）の波形パターンは異なるので、会話音がないときの騒音抑制は比較的簡単なのですが、同時に存在しているときに騒音だけを取り出して抑制することは、極めて難しいと言えます。

最近の先端技術では、時間の経過と共に進行する会話音の波形変動を常時モニターすることが出来ます。時間と共に会話が進む中で、会話音を劣化させることなく、それ以上の大きさの騒音を忠実に抑制する対策が取れるようになってきました。精度を高めるために、各補聴器メーカーが技術力を競っているのが現状ではないでしょうか。